

裁判の
地裁で

千葉地裁の裁判
に、千葉地裁で裁
れた被告の数は、
裁本庁を上回り、全国で
名別では、覚えい取続
するものが最多で、次い

ついで千葉地裁の裁判所
長は「裁判員が実際にどん
職務をするか理解が広まっ
いないように思われる。職
務を知りたいというニーズは確
実にあると思うので、積極的
に広報に取り組みたい」とし
ている。

は「船橋の未来のために一
緒に汗を流し、知恵を出し
てほしい」と呼びかけた。
松戸市長は午前九時、市
役所に登庁し、職員や詰め
掛けた支援者から花束が贈
られた。続いて職員約二百
五十人に訓示。「市人口が

いう。今回のフェアは7月26日
まで。
(保母哲)

「流山市の鳥」へ前向き

オオタカ

流山市は二十日、市内に生息し、学校名などに多く登場する「オオタカ」を、「市の鳥」にする方向で検討していることを明らかにした。市議会で、田中佳二環境部長が「前向きに検討している」と答弁した。

市では、オオタカの繁殖を一九九二年に市内の「市野谷の森」で、県内で初めて確認した。全国の市町村に先駆けて二〇一〇年に策定した「生物多様性地域戦略」では、オオタカをシンボルに生物多様性の保全に取り組んでいる。つくばエクスプレス（TX）の駅の名前にもなっており、市民からは「市の鳥」に推す声も上がっていた。市はこういった点を踏まえ、「オオタカ」が市の発展に貢献し、シンボリック存在になってい

発展に貢献、象徴 市が検討を表明



流山市内に生息するオオタカ（2015年撮影、流山のオオタカを守る会提供）

ることを評価。今後具体的に検討し、保護策も考えていく。二月に市内であった自然保護の学習会で、「市の鳥」にするよう提案した「流山のオオタカを守る会」の紺野竹夫代表（五）は、一五年から三年続けて今年も市野谷の森でオオタカのつがいが増殖できなかったことを明かし、「ぜひ早く市の鳥に制定して、保護に力を入れてほしい」と話した。（飯田克志）